

Motion Check

機能

体動の検出を行います。体動は光トポグラフィ信号に対して周波数フィルタを実施し、その結果なお変化量が判定値より大きい場合、体動があったとしてその位置にフラグを設定します。

パラメータ設定

周波数フィルタの種類、High-Pass, Low-Pass **(A)** を設定します。

次に criterion **(B)** を指定します。criterion は変化量が大きいと判定するための基準値です。値は数値もしくは対象データの標準偏差を用いることができます。標準偏差を利用する場合は文字列”sigma”を用います。

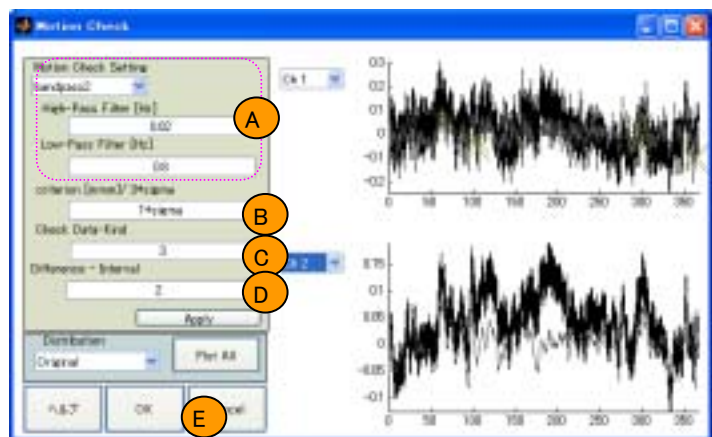
Check Data-Kind には体動の検出時に用いるデータの種類 **(C)** を指定します。複数のデータ種類を指定した場合、どのデータ種類で体動を検出してもフラグが設定されず。

Difference-Interval には変化量を見るための時刻の差分 **(D)** を設定します。単位はサンプリングピリオドです。

設定の結果を反映し、体動チェックの結果を見るには Apply ボタンを押してください。そうすると右側に元データが実線で、周波数フィルタ後のデータが少し薄い線で表示されます。また、体動があったと判定した時刻は×印で示されます。

全チャンネルの情報が見たい場合は Plot All ボタンを押してください。

内容が宜しければ OK ボタン **(E)** を押し、設定をレシピに保存します。



論文

“Sounds and silence: an optical topography study of language recognition at birth.” Peña M, Maki A, Kovacic D, Dehaene-Lambertz G, Koizumi H, Bouquet F, Mehler J. Proc Natl Acad Sci U S A. 2003 Sep 30;100(20):11702-5.